

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	49	・日常的な外出支援が不十分である。	・一人一人の希望する場所へ行く事ができるように支援する。	・その日の体調や天候を考慮しながら10日に1回は外出支援をしていく。	6 か月	
2	23	・なかなか一人一人とゆっくり関わる時間が持てていない。	・ゆっくり関わり一緒に過ごす時間をできるだけ多くする。	・昼食後やおやつの時にスタッフも一緒にテーブルに座り、関わりを持つようにする。	3 か月	
3	14	・普段の関わりの中で馴れ合いのような接し方になってしまっている時がある。	・入居者は人生の先輩である事を常に意識して接するようになる。	・スタッフ主体ではなく、入居者主体の言葉掛けや対応をしていく。	3 か月	
4					か月	
5					か月	

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(該当するものすべてに 印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
			利用者へサービス評価について説明した
			利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	自己評価を職員全員が実施した
			前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
			自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
			評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
			評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		予定	利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
			評価機関へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		予定	運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		予定	「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
			「目標達成計画」を評価機関へ説明し、提出した(する)
		<input type="radio"/>	「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
			その他()

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	目標達成状況(任意)
1	36	親しみを込めて利用者を名前で呼んでいるが、馴れ合いになってしまう傾向がある。	親しみの中にも尊厳をもった関わりを心掛ける。	家族さんや本人から、呼んでほしい呼び方や、昔呼ばれていた愛称を、情報収集する。 人生の先輩であることを意識して、尊厳をもった声かけをし、関っていく。	3 か月	
2	6	玄関は開いているが、フロア出口の鍵は閉める時がある。	出来るだけ鍵を掛けない。	職員同士が声かけあって見守り、付き添いをする。日勤が主にフロアの見守りで他の勤務者がセンサー対応やトイレ対応。 帰宅の訴えが強く危険な時には、一時的にやむを得ず鍵を閉める。あくまでも目標は「鍵を掛けない」。	3 か月	
3	23	スタッフ本意になっている。 利用者からの希望や意見があまり出ない。	少しでも本人の望む生活に近づける。	朝の起床時、声かけしながら本人のペースに合わせる。 アセスメントシートを作成し、本人の生活リズムの把握をする。 本人と一緒に、夢プランの作成をする。	3 か月	
4					か月	
5					か月	

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		(該当するものすべてに 印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	利用者へサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/>	その他()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		予定	利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	評価機関へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		予定	運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	その他()
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		予定	「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="checkbox"/>	「目標達成計画」を評価機関へ説明し、提出した(する)
		<input type="radio"/>	「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/>	その他()